



府中地区保護司会だより

第38号

発行責任者 府中地区保護司会
会長 谷 合 隆 一



夕陽が山頂に沈む

ダイヤモンド富士

(写真提供) 府中市郷土の森博物館

歩いています



府中地区保護司会

副会長 北島 章雄

夕方日も暮れかかる頃、自宅を出て、歩き始めます。善明寺山門の横を通り清水下小路（しみずしたこみち）を西へ向かい下河原緑道へ、そして、多摩川かぜのみちを目指して早足で歩きます。歩き始めた時期は木々が色づき始めてあざやかで、多摩川かぜのみちに出ると夕焼け空に富士山が見えてとても爽やかな気分になります。

保護司会活動も私なりに歩いてきました。最初の一步は踏み出すことも不安でなりませんでしたが、先輩の助言を頼りにゆっくりと歩き始めました。振り返ると諸先輩方の背中を見失うこともなく進み今日があります。私の後をついてきている人も立派な方々がたくさんいらっしゃいます。

保護司とは、「社会奉仕の精神をもって犯罪をした者の改善及び更生を助けるとともに、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、もって地域社会の浄化をはかり、個人及び公共の福祉に寄与することを、その使命とする。」とあります。地域の中で更生を目指す人たちの手助けをして私なりに歩んできました。

私たちの行っている「更生保護」は人の立ち直りを支える活動です。犯罪や非行をした人も、何らかの処分を受けた後は、地域社会に戻り、社会の一員として生きていくこととなります。更生保護とは、国が民間の人々と連携して、犯罪や非行をした人を地域の中で適切に処遇することにより、その再犯を防止立ち直りを助けるとともに、地域の犯罪・非行の予防を図る活動のことです。

十一月の初旬より歩き始めましたが、この会報が発行される頃も歩き続けていると思います。

一口メモ

・ 護 (こ)

保護司の「護」という漢字は「ゴ・マモル・サネ・モリ」などと読みます。主に「守る・助ける・かばう・防ぐ」といった意味ですが、特にこの漢字には「言葉で人を守る」という意味があることを知りました。あらためて保護司活動の本来の意義を痛感する昨今です。

第七ブロック協議会に参加して

総務部 那須 史子

十月二十六日、府中グリーンプラザに於いて平成二十七年度第七ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催されました。

今年は、「充実した保護司会の地域活動について」という協議会で五つの地区の意見書を基に、それぞれ特色のある地域活動の報告を行いました。

調布・狛江地区は、協力雇用主との連携について発表し、平成二十一年に立ち上げた地元雇用主会は現在十三事業になり、事業主と保護司が積極的に研修会や懇親会を重ね、特に新規の制度や奨励金について講師を招くなど、研修会の充実ぶりがかがえました。

北多摩北地区（小平・東村山・清瀬・東久留米・西東京）は、十三年前に



谷合会長あいさつ



座長：山上保護司 発表者：小澤保護司

発生した中高生による暴力致死事件を機に、全市を挙げて「いのちと心の教育」に取り組み、その後「非行防止研究会」と称して市内小・中学校に赴き、講演を実施。平成二十三年から「青少年の育成を考える集い」と改称して各関係団体との連携をより深めているとのことでした。

北多摩東地区（武蔵野・三鷹・小金井・国分寺）は、国分寺分区分が「ひまわり運動」として、社明のシンボルであるひまわりの種まき、除草、迷路遊び、種の配布、ひまわりコンサートなど年間を通して活動に取り組んでいる様子が発表されました。

北多摩西地区（立川・昭島・国立・東大和・武蔵村山）は、国立市内にある更生保護施設「くにたち安立」についての説明でした。月一回の集



会では、保護司会のつながりを意識した機会を持ち、対象者との面接場所としても利用し、女性保護司の出入りが近隣住民への安心感を与える効果があり、施設側からも感謝されているそうです。

府中地区は、「学校との連携委員会」が十五年目を迎え、市内中学校の生活指導主任会との懇談会を毎年一回行い、有識者による講義・研修を続けていること。市内小学校の道徳授業を参観し、連携を進めている詳細な報告がありました。

各地区の発表後、活動中での苦労や工夫について意見交換があり、講師もいただきました。当日、府中地区が当番地区を務め総勢九十四名の参加者がありました。協議会後の懇



府中駅から会場までご案内



第七ブロック協議会（当番地区：府中）

親会は、和やかな交流の場となりました。このような視野が広がる会に参加させていただき感謝申し上げます。

学校との連携委員会の活動

学校との連携委員会委員長 杉浦 渉

自由って何だろう

南町小学校・道徳授業参観の記

授業の概要

- 平成二十七年十月十九日(月)
- 府中市立南町小学校
五十嵐恒雄校長
- 五年一組児童三十一名
授業者 瀧村明大教諭
- 主題名「自由と規律」
- 参観者 府中地区保護司会十名

「自由」の感覚と意義

五年生というと十歳か十一歳、この年齢の子どもたちは自由であることとをどんな感覚でとらえているのでしょうか。授業の始めに、瀧村先生は子どもたちの普段感覚を引き出しました。ほとんどの子どもたちが、「何をしてもいい」、「我慢をしなくてもいい」などと答えていました。

そして、読み物資料『うばわれた自由』を読んで考えを深めていきました。「自分勝手ではないこと」、「自

分で責任が取れて、みんなが納得すること」と、自由の意義を考え始めている様子がうかがえます。さらに先生は追い打ちをかけるように問いを投げかけました。「では、お金と時間についての自由を君たちはどう考えますか?」と。

学習で深めた自由の意義を、もう一度子どもたちの身近で切実な実生活の中で考えを深めてほしいとの願いでしょう。感覚と意義との間の揺らぎは、きっと子どもたちを鍛えることになるに違いありません。



授業風景

授業後の懇談会

発達課題を理解する

生活指導主任会と保護司との懇談会 報告

- 平成二十七年十一月十二日(木)
- ルミエール府中飛鳥
- 来賓・出席者
東京保護観察所立川支部・府中市教育委員会・在府中都立高校・府中市立小中学校生活指導主任会

- 府中地区保護司会 計五十四名
- 講演「発達課題・障害と少年非行」
講師 特別支援教育ネット代表 小栗 正幸 氏

学校との連携委員会では、ここ五年間にわたって発達障害とその対応をテーマに、生活指導主任会との懇談会・講演会を行ってきました。今回は、発達課題・障害と少年非行、その支援や相談の在り方について小栗先生からお話をうかがいました。

例えば「仲良し課題」。♪一年生になつたら友達百人できるかな♪の歌のようにいけたら素晴らしいのですが、実際はとても難しい課題です。いろいろな人と分け隔てなく仲良しになりましようというのは、いわば標語(スローガン)のようなものだ



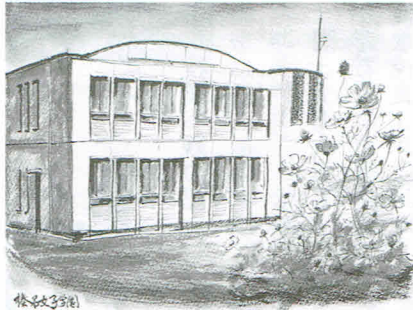
ということを忘れてはいけないと先生は言います。そうでないと、この仲良し課題をクリアできない当事者の人生は息苦しいものになるからです。

課題の重さが発達の「ゆがみ」につながることもありうるという指摘は、まさに頂門の一針でした。

*小栗先生の講演記録は、『学校との連携委員会活動報告書』に掲載されます。詳細はそちらをご参照ください。

宿泊研修 榛名女子学園

地域活動部 田中 陽子



榛名女子学園

画：杉浦



富岡製糸場にて



榛名女子学園前にて

宿泊研修は従来研修部が担当されてきましたが、今年度は地域活動部の担当となり、企画・立案・実踏をし、十月一日～二日にかけて榛名女子学園と世界遺産富岡製糸場へ研修に行ってきました。榛名女子学園は、関東、甲信越、静岡地方の家庭裁判所において審判若しくは裁判により、保護処分又は刑の執行を受けた十四歳以上二十歳未満の女子少年を収容する国の施設であり、群馬県榛名山のふもと近くに建てられています。

女子少年院は全国に九学園あり、年齢も非行も環境もばらばらであるのが特徴であり、集団処遇が難しく個別処遇が主となります。少年非行は年々減少し在院数は、平成二十四年は五十一人、二十五年は二十七人、二十六年は三七人で十年前と比較すると三割減になっています。しかし親の養育能力も減退し退院が決まっても親元に帰せない女子少年が二割あり、またこれらの少年は虞犯（ぐはん）が多いのが特徴であるとのこと。その家庭環境は劣悪であり、実母のみの家庭が三十五割、貧困の問題や父親からの性的虐待など、家庭が安らぎの場ではなく戦場となると所

長からの説明を受け、保護司として、一人の母親として切ない気持ちになりました。この子らが地域社会に受け入れられるには、少年たちの出身と居場所の確保が必要だと痛感しました。傷ついた心を穏やかな環境の榛名女子学園で癒し、少年たちが更生し、未来に向かって羽ばたくことを願ってやみません。

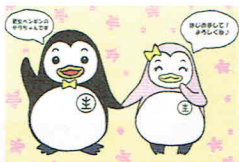
二日目の研修は世界遺産富岡製糸場の見学と、横川の峠の釜めし・こんにゃくパークなど盛り沢山の研修でした。

調布・狛江地区保護司会との交流に向けて「研修部」

平成二十七年八月二十七日、調布・狛江地区保護司会と府中地区保護司会の研修部が集まり、相互の交流に向けての準備会が調布の会場で開かれた。両地区は以前、北多摩南保護司会に属しており、本年四月、共に創立二十周年を迎える。

準備会への参加者は、調布・狛江地区が鴨志田守久会長以下六名、府中地区からは谷合隆一会長以下六名の計十二名で、本年五月に双方の交流会が予定されている。

ペンギン 更生ちゃん
ホゴちゃん
サラちゃん



「サポートセンターふちゆう」の充実をめざして

府中地区保護司会副会長 高野 佳子

平成二十七年四月七日の開所以来、早十ヶ月が経過し、現在も火金の週二回、当番編成を組み駐在に当たっております。これにより、保護司同士の交流が深まり、処遇の悩み・報告書の書き方等気軽に話せる場ができ、情報交換が活発化しました。陽射しが降り注ぎ、明るい雰囲気の中で、和やかに活動しております。



更生保護女性会も役員会・部会等に会議室として有効に活用しています。平成二十八年十二月に開催予定の創立二十周年行事に向けて、合同で実行委員会を行ったり、記念誌編纂・祝賀企画等の会場確保の心配がなくな

りました。

また、

二月十九

日に開催

された健

全育成講

演会では、

小栗正幸

氏を講師

にお招き

し「非行

少年への

対応を考える

〜学校・家庭・地域に

できること〜というテーマでご講

演を頂きました。更生保護を市民の

方々に広く理解してもらおう契機にな

ればと、『広報ふちゆう』にて参加

をよびかけました。

今後、サポセン運営を巡る課題と

して、有効活用の方策等を検討して

いかなければなりません。そして、

地域における更生保護拠点の確立

のために、地域との良好な関係を続

け、情報の発信等各方面へ理解を求

めていかなければならないと考え

ます。



更女の活動

府中地区更生保護女性会

副会長 西谷 照代

五月十五日の総会に於いて、伊藤ゆきえ会長はじめ役員が承認され、三百八十名(保護司の方等、協力員八十一名含め)の会員と協力し、関係機関と連携を取りながら活動しております。

今年度は、東京更生保護女性連盟より「ミニ集会」のモデル地区に指定され、地域活動部を中心に「思いやりとは」のミニ講演や体操教室・手芸講習会など、企画し実施しました。九月に開催した早稲田大学文学部教授の大敷泰氏の講演会「赤ちゃんとお母さんの心のきずなが結ばれる時」は、更女会員のみでなく、一般の親子の参加もありました。

研修部の活動では、多摩少年院を訪問。院長より詳しく説明を受け研修することが出来ました。広報部では年一回広報紙を発行しています。詳しくは、府中更女だより、二十号をご覧ください。その他にも各施設・幼稚園・保育園等の行事に出席。また府中市の子育て支援に多くの会員が参加協力・お手伝いをする等、自己研鑽に励んでいます。

府中地区保護司会コラム

広報部 内藤 治

定例研修補講の際、お世話になる霞が関の法務省本省内の地下食堂を紹介します。

洋食イタリアン・そば・寿司。お好みの四店舗で結構充実しています。この前の定例研修補講を受講する時に、ペペロンチーノパスタセットをいただきました。スープ・ミニサラダ付きで七〇〇円と値段はお手頃。なんとイタリア料理でありながら、「白玉小豆」も付いて、女性には人気が高いこと間違い無し。今回は食べていませんが、レバニラ炒め五七〇円、カレー五四〇円、ネギトロ丼七三〇円など、メニュー豊富で美味しそうです。

都内二三区の保護司の方々の「対象者との接し方」や「経験談」など参考になることも多々あり、地元地区とは一味違う研修プラスお手頃な食事を機会あれば試してみたいかがでしょうか。



特集
府中地区保護司会
創立20周年記念
座談会（抜粋）

あいさつ

松本俊 先輩方のご苦勞も多々あったと思うが、過去を振り返って、今後の展望が見通せればよい。

中込 記念誌編集に当たって、座談会を開き独立した時の苦勞話などを記録したい。氣付いたことをどんどん言っしてほしい。

府中地区独立の経緯

―独立前、保護司会の会議はどこでやっていたのか。

森岡 府中・調布・狛江の三市持ち回りだった。社会探訪の気持ちで他市にも出かけ、楽しかった。

松本俊 地区（北多摩南）と分区（府中）で二重構造になっていた。



全体には出ないで、分区に出ることが多かった。

―「保護司会だより」第一号には「府中保護司会」とある。現在の「府中地区保護司会」に変わったのはいつごろからか。

松本俊 平成九年三月の臨時総会で会則が変更され、その時、四つの部（総務・地活・研修・広報）もできた。十一年四月「府中地区」に変わった。

―独立に至る経緯をききたい。

幸尾 府中市の人口が二十万人になったことが大きい。もちろん、保護観察所からのリードもあったと思う。

各部の活動

―四つの部ができたとの話があったが、各部の部長で先輩にききたいことがあるか。

伊藤敏（研修部長） 以前は、保護司としてのスキルをどのような形で磨いていたのか。

土田 聞き方教室に通ううち、自主研修会が始まり、それが発展していった。中心になったのが中島さんだった。

山本（地活部長） 社会を明るくする運動の街頭広報は、どのように行われていたのか。今はフォーリス前のみだが。

松本恵 その当時は駅ごとに集合してやっていた。府中・中河原・多磨霊園などで各駅に何人と決めるまで何回もやり直しをした。皆に、お花の鉢が配られたのはうれしかった。

犯罪の状況・今むかし

―当時の対象者や犯罪の状況について、現在との違いも含めて伺いたい。

幸尾 昭和五十五年十二月に保護司となつてから、ずっと七〜八人を担当してきた。少年たちは、つるんで軽い犯罪を多くおこしていた。その当時、保護観察報告書を書くのに三日ぐらいかかったのを覚えている。

森岡 少年犯罪が多く、特に暴走族が大変だった。対象者には名だたる隊長もいた。府中警察の少年係長が同行してくれ、暴走族のレース現場を東八道路の陸橋上から見たこともあった。

こういう状況では、保護司だけでは到底力及ばないと実感し、四中学校長だった保坂先生に退任後は保護司にお願いした。

保坂 昭和五十年代は学校が荒れ



―ある中学では男子トイレのドアがなかった（中で何をしているかわかるように）。また、出張で出かける車がパンクしたりした。でも、学校が手放してはいけないと切実に感じ、皆で問題を抱えたことがよかった。

―少年非行の専門家である大住さん、いかがでしょうか。

大住 昭和三十年代は少年犯罪多発、四十年代は万引・自転車泥棒や無免許運転など、そして五十年代後半から校内暴力と続き、東京近辺の鑑別所や少年院はどこも満員だった。平成に入って神戸の少年Aの事件や特異な事件が起こったが、見える所が変わっても、少年事件の根になつている所は変わらないのではないかと思う。

※後半の内容については、平成二十八年十二月発行予定の二十周年記念誌をご覧ください。



《座談会出席者》

(桐友会)

森岡 玲子
幸尾 弘子
中島 利夫
松本 恵子
大住 猛雄

(保護司会)

(会長)谷合 隆一
松本 俊雄
高野 佳子
北島 章雄
加藤 茂
西谷 照代
西腰 美恵子
土田 三澄子
伊藤 敏春

朝倉 俊夫
山本 裕章
大沢 美保子
杉浦 渉
堺 美佐子
伊藤 仁
(計22名)

敬称略

府中地区保護司会
創立20周年記念 座談会

《テーマ》 保護司会活動を考える
(創立から展望まで)

☆日時：平成27年11月19日 (木)
☆場所：大國魂神社 杉の間
☆進行：加藤副会長 座長：谷合会長
〈主な内容〉

- ◆ 府中地区保護司会の独立及びその後の歴史を振り返って
- ◆ 保護司会の現況など
- ◆ 課題や今後に向けての展望など
- ◆ まとめ

はじめに

府中地区保護司会は、平成8年に北多摩南保護司会(調布・狛江・府中)から独立し、平成28年4月に創立20周年を迎える。20周年を記念して開催された座談会の中から、今号では単独の保護司会として活動していくまでの経緯、その後の歩みなどを中心に振り返ってみたい。

「広報部こぼれ話」

広報部 大沢 美保子

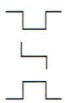
二八(につばち)というのと、商売をやっている多くの人にとって、お客の少ない、そのため売上も減る時期(二月と八月)を指す。私たち広報部にとって、この二八は全く逆で、毎年一番忙しい時期となる。というのは、広報誌「保護司会だより」の発行が三月一日と九月一日なので、その前月は原稿チェック、写真の選定、校正、印刷所とのやり取りなど何回も部会を持つことになるからだ。

サポートセンターができてからは、パソコンやプロジェクトを使って作業も随分やりやすくなった。しかし、ITの時代といえども意外な難所は、原稿を声に出して読む、主語・述語の関係、原稿の書き方などで、学校で習った基本的なところがいかに大切かがよくわかる。

正しいもの同士を結んで下さい。

校正記号
クイズ

- ①
- ②
- ③



アイウ 1字下げ
1字上げ
改行する

答えは8P

その他の参加行事・研修

七月

- ・多摩地区保護司会連絡協議会 顕彰式典
- ・危険ドラッグ撲滅都民大会
- ・シンポジウム「家庭のあり方を考える」非行を生まない視点から

八月

- ・社会貢献活動 安立園

九月

- ・東京桐友会会員の集い

十月

- ・薬物乱用防止啓発活動

十一月

- ・東京更生保護事業関係者顕彰式典

十二月

- ・多摩地区保護司会連絡協議会 受賞祝賀会
- ・府中市人権作文発表会
- ・府中市要保護児童対策地域協議会 「キレる子どもの対応について考える」

○特別研修

- 六月 更生保護サポートセンター 運営連絡研修協議会

十月

- 事例から学ぶ処遇のポイント

十二月

- 被害者と更生保護

○施設行事への参加

- * 関東医療少年院 コーラス交歓会
- * 学習発表会・運動会・クリスマス会

- * 府中刑務所 運動会・文化祭



平成二十七年(秋) 受賞者

○府中地区保護司会
法務大臣表彰

全国保護司連盟理事長表彰
谷 合 隆 一

関東地方更生保護委員会委員長表彰
濱 田 博

関東地方保護司連盟会長表彰
三 浦 智恵美

赤 塚 正 坦
野 口 良 子
吉 野 博 文

東京保護観察所長表彰

東京保護観察所長感謝状
家族功労 濱 田 孝 子

東京都保護司会連合会会長表彰
秋 山 勤

府中地区保護司会永年在会
山 上 稔

二十年 西 腰 美 恵 子
十年 高 野 律 雄
高 橋 淳 二

○府中地区更生保護女性会

関東地方更生保護委員会委員長感謝状
西 谷 照 代

関東地方更生保護女性連盟会長表彰
奥 田 美 津 子

東京保護観察所長感謝状

東京更生保護女性連盟会長表彰
野 口 良 子

北 村 のぞみ



新任紹介

平成二十七年九月十七日付



広報部
市 毛 彰



地域活動部
藤 井 幸 夫



地域活動部
前 田 久 美 子

平成二十八年二月一日付



地域活動部
齋 藤 則 夫
(府中警察署)

退任者

長い間ありがとうございました。

備 邦 彦
小 澤 宏
泉 伸 一 (府中警察署)

編集後記

本年は府中地区保護司会が独立して二十年です。暮れには二十周年記念誌が発行される予定です。今号には特集として独立までの先輩方のご苦労、今までの貴重なお話を一部抜粋して掲載致しました。記念誌の発行を楽しみにしつつ、先輩方のお話を参考にこれからも活動していきたいと思います。

お忙しい中、原稿をお寄せ頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。有難うございました。
中込八重子

校正記号クイズの答え

- ①—I
- ②—ウ
- ③—ア

広報部

部長	大沢美保子	伊藤ゆきえ
副部長	堺 美佐子	杉 浦 涉
書記	伊藤 仁	内 藤 治
会計	野口 良子	中込八重子
	赤塚 正坦	市 毛 彰

題字は高野市長の揮毫によるものです